

豊島区立雑司が谷旧宣教師館

〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷1-25-5 Tel/Fax 03-3985-4081

◆旧宣教師館イベント報告◆

今年の春は寒い日が続き、おかげで例年になく長い桜を楽しめました。旧宣教師館の庭はその後バラ、テイカカズラ、カルミアと次々と開花を迎えています。みなさんがこのたよりを読む頃には、何の花が咲いているでしょうか？春の花が初夏の花に替わる間、宣教師館で行われたイベントを二つご報告します。

◆春のガーデンコンサート◆



恒例の母の日に行われる「春のガーデンコンサート」が、2010年5月9日（日）に開催されました。雨に降られたことがほとんどないと言われている当館のガーデンコンサートですが、今年も良いお天気に恵まれました。日当たりのよい席では帽子がないとつらいほどでした。それでも開演の30分前から来て席で待っていてくださったお客様は、「毎年楽しみにしています」とおっしゃってくださいました。

演奏が始まると、加藤悦子さん（ソプラノ）を中心としたメンバーによるギター、マンドリン、マンドラ、オーボエ、フルートの美しい音色が庭いっぱいに広がりました。第1部はマンドリン4重奏に編曲された3曲です。F.シューベルト作曲の「アヴェ・マリア」に始まり、フルートが基調のTh.ベーム「うつろな心」による変奏曲や、オーボエ基調のJ.F.ファッシュによ

る「協奏曲ト短調」が次々と奏でられました。

休憩をはさみ、第2部は声楽が中心の楽曲に移りました。G.ヴェルディの「歌劇『椿姫』」や、山田耕筰の「この道」など、外国語だけでなく日本語の歌も取り混ぜ、時には加藤さんのお話も加わり、全6曲が演奏されました。最後は、滝廉太郎作曲「花」や「ふるさと」など、馴染み深い曲をご来場の皆さんと合唱して締めくくりました。テレビやCMで耳にすることが多い曲も、マンドリン4重奏が加わり、新鮮な響きとなりました。

老人ホームからの団体さんや、小学生のお友達同士、赤ちゃん連れのご家族もいらして、聞き入って下さいました。秋のコンサートは10月を予定しております。ぜひお気軽にご参加ください。

詳しい日程は日が近づきましたら、『広報としま』と、当館HP (<http://www.city.toshima.lg.jp/bunka/shiryokan/index.html>) にてお知らせいたします。



（左） 熱唱する加藤さん
（上） コンサートに合わせたかのように、3輪の赤バラが開花しました。

◆雑司が谷からPEACE!◆
青い空は青いままで伝えたい
～おばあちゃんが語る「東京大空襲の記憶」～

毎月第1土曜日に旧宣教師館の児童図書コーナーで開催しています。「赤い鳥を語り継ぐおばあちゃんのおはなし会」は、“おばあちゃん”こと小森香子（こもり きょうこ）さんによる朗読会です。毎回、児童雑誌『赤い鳥』と小川未明作品から2作品を選び朗読していただいています。詩人である小森さんは、詩作・朗読を通じて平和の大切さを訴えてきました。旧宣教師館でのおはなし会が始まったきっかけも、2003年のイラク戦争でした。開戦のニュースに、「何か自分にできることはないか、未明や『赤い鳥』の世界を読み聞かせることで、子どもたちに平和を伝えていきたい」との思いから始まりました。

2010年3月6日(土)の会は、通常のおはなし会に加え、東京大空襲や当時の雑司が谷の様子を小森さんに語っていただくイベント「青い空は青いままで伝えたい」が行われました。このイベントタイトルは、1971年の第17回原水爆禁止世界大会に向けて公募し、第1位入選した曲「青い空は」から来ています。小森さんはこの曲の作詞者でもあります。以下は、小森さんの著書『生きるとは』『わたしの五十年』などから戦争当時の想いを綴った詩の朗読を交えつつ、少女時代の戦争体験や平和への強い想いを語っていただいた講演の要約です。

小森さんは、雑司ヶ谷霊園の近く、豊島区日出町とよばれていたところで、1930年に生まれました。太平洋戦争開戦の11年前です。7人兄妹の末っ子で、護国寺の裏の青柳小学校に通いました。作文が好きだったそうです。近所に住む小川未明とは家族ぐるみの親

交がありました。しかしこの頃から、お国のために死ぬ人間になるよう、学校では教えられました。

激しさを増す戦争は、都立第十高女（現東京都立豊島高等学校）に入学した小森さんの生活を変えていきました。英語の授業は敵性語ということでなくなり、コーラスも“ド・レ・ミ”は使えず、代わりにドイツ語や“イ・ロ・ハ”を使わされました。悪化して行く戦況に、3年生の時には学徒動員が繰り下げられ、工場での防毒マスク作りが学生生活となりました。読書に飢えた小森さんは、教員のお姉さんが棚に鍵をかけて封印しておいた『赤と黒』『レ・ミゼラブル』といった翻訳書を持ち出して読みあさりました。

「こっそり持ち出した わたしは 酔った とにかくおもしろかった 違う世界 人が人として生きている 物語の国 おしゃべりの時間に友だちに語りかかせた （『わたしの五十年』より）」

そんな息抜きも、工場の監督に露見してしまい、厳しい制裁を受けてしまいます。

何度かあった東京大空襲の中でも、1945年3月10日の空襲は特に規模の大きいものでした。その晩、小森さんは空襲に備え、ゲートルを巻き、服を着たまま寝ていました。普段との様子のおかしさに気付き、休暇で帰っていたお兄さんと協力して、病気で寝込んでいる御両親を防空壕に避難させました。その後、二人で家の消火のために、頭から何度も水を被りながら屋根の上に水を運びました。一晩中の必死の消火活動のため、翌朝から小森さんは急性の神経痛に苦しんだとのこと。今でもその痛みは、トラウマのように、3月になるとよみがえるそうです。

～今後のおばあちゃんのおはなし会・予定～

- 8月7日 小川 未明『鉛チョコの天使』
楠山 正雄『天地の水』
- 9月4日 小川 未明『小さい針の音』
小島政二郎『京都だより』

毎月第1土曜日、PM2:00～3:00で児童図書コーナーにて開催。参加費・事前予約不要、直接会場へお越しください。

